

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-3（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931

対沖繩

(半北一長出版等)

万機

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

35

電信写

大政事外外務省
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀密文会密給

総番号(TA) 52982
 69年 11月 21日 23時 15分
 69年 11月 22日 13時 24分

主管

シ-ヨ-1
本 省 発着 米

外務大臣殿 岡田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ百万同ほろにおくる言は発表

第957号 平

21日。21時ウオールドルア。アストリア。ホテルにて発表した

米に転電した。

(3)

総人電厚計
 国資長領移長
 参調折企
 参領旅移

ア 参地中東
 長 北東西
 米 参北北保
 中 参一二
 南 参西東洋
 審 西東
 欧 長

近 参審近ア
 了 次総経国万
 長 参貨航国
 経 参政技二
 長 国一理
 参 参参協規
 参 参政経科
 長 軍社専
 参 参道内外
 文 一二

27

要字 部

宛電符 總第 58618 号
昭和 44.11.24 日 時 分 發

漢

24-121

電信課長 *[Handwritten]* 電信案 (分類)

暗 <u>略</u> 平	第 <u>462</u> 号 (LIF)	<u>大臣</u>
大 臣	主管 <i>[Handwritten]</i>	起案 昭和 44年 11月 24日
政務次官	<i>[Handwritten]</i>	
事務次官	主任 <i>[Handwritten]</i>	起案者 <i>[Handwritten]</i> 電話番号 644 (内)
外務審議官		
官房長 <i>[Handwritten]</i>		

~~岸田首相~~ ~~外務省~~
 閣議決定
 報告書
 報告書

在 *[Handwritten]* 臨時代理
 大 公 使 宛 *[Handwritten]* 大臣發
 總 領 事 宛 *[Handwritten]* 代 姓

電 報 在 朱 下 田, 十 二 日 所 *[Handwritten]* 大 公 使 宛 總 領 事

件 名
 總理訪朱成果11月13日屋良主席說明
 牽涉局長大河原
 1. 本報20日所合世とあり北米米1課長は23日沖繩
 12日赴文、高魂大佐、岸所長に就次說明後同日
 午後、約1時向半12日夕主席公邸に於いて屋良主席
 知念副主席口述し、余人に交え、今次對米交渉

寫 濟

24-121
561

GB-1 外務省 回覽番号 3789

の経緯と意義、及び共同声明の各項につき詳細
説明を行ない、また関係資料を手交した。

その際冒頭主席は襟を正して「よい時期により
総理及びよい外務大臣が在職され並になさぬ
努力を払われたことは、国のため沖縄のため

感謝にたえず」と述べ、「自分は個人として

政府の御苦労はよく分っているつもりだが、沖縄県民

代表としては、最大公約数的なことを公けに発言

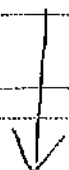
せざるをえないことをよく了承してほしい」と付言

した。^{早朝}（なお副主席によれば、22日の主席スピーチ

メントはすでに前日共同声明を見ないうちに

~~（この日政府が資料提供の共同声明テキストを提出し、~~
作っており、そのあとの一問一答に主席の真情が

吐露されている由。）



(1) 先方が持に問題としたのは、第8項の読み
 方で「軍前協議制度に関する米政府の立
 場と害する^{こと}なく」と「日本政府の政策に背
 馳しな^らず実施する」との関連がよく分らず、
 これは互に矛盾しているのではな^らかとの疑惑が
 琉球政府首脳の間にあることであつたので、当方
 は愛知大臣の説明要旨等により、この項の意味
 は「米国は返還時核めを確約し、同時にすべ
 ば安保条約体系のもとで保持して^る軍前協議
 の権利を再確認(対自国々内配慮上)したのみ
 であり、互に矛盾はな^ら旨説明しおいたことよ
 く分つた」と述べていた。

(2) 二のほか先方は次の如く述べた。

(1) 5項目の質問として (A) 1972年返還は

動かぬか(動かすと答へおいた。以下カッコ内同じ)

(B) 基地の自由使用はあり得るか (否)、

(C) B-52の自由出撃は考えられるか (否)、 (D)

空保堅持は政府の基本政策か

(然り) (b) 中絶基地の「重要性, 正認性」として基地の

地盤固定化の意味が不明(否), ~~(否)~~

^{共同目的の}
(b) 3ヶ条と(c) (A) 概・BS2・自由使用の是非
^{項目の}

不明確 (b) 安保堅持 如くして基地固定化の

印案が後の (c) 基地の縮小整理・合意研案等が

明記に在り (是等の地位協定の施行に於ける

予ての問題であるが 復原準備段階にて半協と見

察せられ通る并合は有ると述べられた)

(3) 現在 ~~中絶~~ のことと在りて 復原準備に因りて 10項目

につき詳細協定の要求を以て 是等の背景が如何に

予想するべき点取り等 12項目を解決(おいては) 主席

は ~~中絶~~ 出陣の限り 東尼の利益を反映する努力

をいと述べた。 (「^と艦内」の地位に於ては、と云ふ高調

大儀の予想を以て 全然に在りて 日有るに在り 具

体的にどうも 復原結果の如く 是等の「艦内」に於て 月下

当方と検討中であり、意見ありは是非論おせはしない旨

要旨として承諾した。 (此材料は云々記者会見で執行部あり)

(4) 上述の要旨を以て環球時報及び外報小紙、これ相当正確に報道した。 2. 24日午後 ~~18時~~ 主席は記者会見、(注: 此材料)

得るに及ばず、在土の向ヶ出等後) 正行ない、⁷「本土政

府の解親正同得るに及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

(1) 基地の整理縮小に筋力ありと。

(2) 安保の中での沖縄の重要性正合意したとの事。

島内得出来ぬ ~~事~~ と。

(3) 概の肉題が明了な以上、B-52 Aの安保

体制の肉題が沖縄にしろ奪せられたこと。

米A20+11 26所に転電した。

核なし復帰に希望

屋良主席が記者会見



屋良主席

【東京十四日電】日本共産党の屋良辰之助委員長は十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。

屋良委員長は、十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。

屋良委員長は、十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。

屋良委員長は、十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。

過激な行動 B

52なども原因

屋良委員長は、十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。

屋良委員長は、十四日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰を希望する旨を述べた。屋良委員長は、核なき復帰は、日本共産党の生存と発展の唯一の道であると述べた。